

各部会等の取組み

本年度は、月1回の事務局会、隔月1回の推進委員会、必要に応じて開催した教育課程部会、進路指導部会、子ども支援部会、そして、能勢高校の将来を検討する会議を8回開催した。また、中高職員会議、管理職による中高連絡会議も開催した。その中で、話し合われた内容も含め、3部会のまとめと活動報告とした。

【教育課程部会】

1 研究課題

- ①小中高一貫したシラバスの検証と改訂。
- ②中学校・高等学校におけるNS（能勢スペシャル）教科の推進。
- ③学力向上に向けての取り組み
- ④授業・指導方法改善の取り組み

2 具体的な取り組み事例

①小中高一貫したシラバス

本年度より小学校の学習指導要領が本格実施され、それに向けてシラバスの見直しとすすめ方について検討した。しかし、シラバスの重要性が十分周知されていなかったため、活用できるシラバス作成についての意見交換に終始した。今後は、能勢高校の将来検討会議でも議論のあった、「一人ひとりが今後の学習目標をもっていることと、その学習を支える基礎学力が獲得できていること」を保障するには、次年度の中学校学習指導要領の本格実施とともに、シラバスを早急に改訂する必要がある。

②NS（能勢スペシャル）授業

次年度より中学校の学習指導要領が全面実施となるため、選択授業枠がなくなるので、NSの授業確保がこれまでどおり実施できない現状がある。また、教員数も減り、事前打ち合わせなども時間確保が難しく、当初の目的通り実施できず成果も見えてこない。従って、効果的な取り組みを模索すべきではないかとの意見があった。次年度も、できるかぎり実施していくが、教員の負担を考えると見直しも必要である。また、他教科についても検討する必要がある。

③学力到達度調査

目的：連携型選抜による能勢高校入学予定者の学力到達度を把握し以後の指導に役立てる。能勢高校の新1年生のクラス分け資料とする。

実施日：平成24（2012）年3月16日（金）午前9時30分～

対象生徒：西中学校・東中学校の連携型選抜による能勢高校入学予定者

検査問題：大阪府学力テストC問題

④教育イノベーションプロジェクトの実施（各学校取組参照）

⑤大阪府学力・学習状況調査の分析と今後の取組み（資料参照）

【進路支援部会】

1 研究課題

- ①キャリア教育の実践について取組みをまとめ発信する。
- ②連携型中高一貫入学者選抜の取組みについて検討する。

2 具体的な取り組み事例

- ①キャリア教育の実践（各学校取組参照）
- ②連携型中高一貫入学者選抜

能勢高校の将来を検討する会議において、次の3点について変更を要望することとした。

- (1) 自己申告書の志望の理由の文言を「将来の夢や進路希望を見据え、高校で学びたい学習内容、身につけたい力、頑張りたいこと、志望する動機や目的」とする。
- (2) 小論文の出題テーマについて、総合学科選抜に準ずるなど、身近なものとし、字数を600字とする。
- (3) 募集定員についても、これまでの選抜での志願状況を鑑み、当該年度の能勢町立中学校3年生の在籍数の50%を定員の目途とする。

【子ども支援部会】

1 研究課題

- ①「生活・生徒指導シラバス」を活用し、小中高の連携した指導体制を確立し、実践を交流する。
- ②「児童会・生徒会サミットを開催し、各学校において自主・自律・自治活動を推進する。
- ③児童・生徒一人ひとりの課題を把握し、指導・支援の内容を充実させ、個別の教育支援計画について検討する。

2 具体的な取り組み事例

- ①生活・生徒指導担当者会

平成23年11月18日（金）に会議を開き、小中高各校の生活指導面での取組み・課題について交流した。能勢地域小中高一貫教育シラバス【子ども支援 生活指導】をもとに各校での取組みを進めていくことと、今後定期的に会議を開くことを確認した。

- ②児童会生徒会サミット

平成24年2月9日（木）、第3回『能勢町児童会・生徒会サミット』を開催した。今年度は、第一部で各校の取組みを紹介し合い、第二部で班ごとに参加者各々の活動への思いや他校の取組みについての意見交流を行った。高校生がリーダー

となり、中学生や小学生の意見を引き出すなど貴重な時間を共有できた。



②支援教育担当者会

研究課題：支援教育を推進するための支援方法や内容について交流し研究する。

主な取組み：

- ・町内8校と能勢高校が、支援学級在籍者の交流を行う。
- ・巡回相談を1学期に1回、2学期に2回、3学期に1回行い、豊中支援学校の山川先生や山口先生に支援方法などのアドバイスを受けた。その後、各校の巡回相談の支援方法などの交流をした。
- ・作業療法士の先生から「作業療法士の視点から子どもを考える」という題で、講演を聞き感覚を掴む軽い体ほぐしをした。
- ・その他、支援学級在籍児童の中学校進学後の様子の交流、支援学級在籍生徒の能勢高校受験の実態交流、能勢高校進学後の支援学級在籍者、能勢高校卒業後の進路先の様子の交流をした。
- ・各校の支援学級用教材・教具の交流。

課題：

- ・幼稚園・保育所から高校までの一貫した「個別の教育支援計画」を能勢町独自で作る必要がある。(年度当初に個別の指導計画の書き方の説明会を持つ。)
- ・町支援研は支援方法をもっと専門的に話し合っていく。

③健康教育担当者会（次ページより担当者会で取り組んだ「食育パンフレット」等を掲載）